

平成28年度

文部科学省発達障害報告会



大阪狭山市の早期支援の 取り組みについて

大阪狭山市教育委員会

1. はじめに



大阪狭山市の紹介

位 置	東経 135度33分	北緯 34度30分
広ぼう	東西 2.4km	南北 7.0km
高 度	最高 165m	最低 52m
面積	11.86Km ²	
人口	58,038人(H28.12月31日現在)	





●シンボル 狭山池

『古事記』や『日本書紀』に登場する日本最古のため池



人・ゆめ・ロマン
狭山池築造1400年



●大阪狭山市の教育方針

大阪狭山市教育振興基本計画 (H27～)

—基本理念—

学びあい、つながりあい、未来に輝く人づくり

平成28年度 大阪狭山市保育教育指針

さやまっ子の夢をふくらませる教育

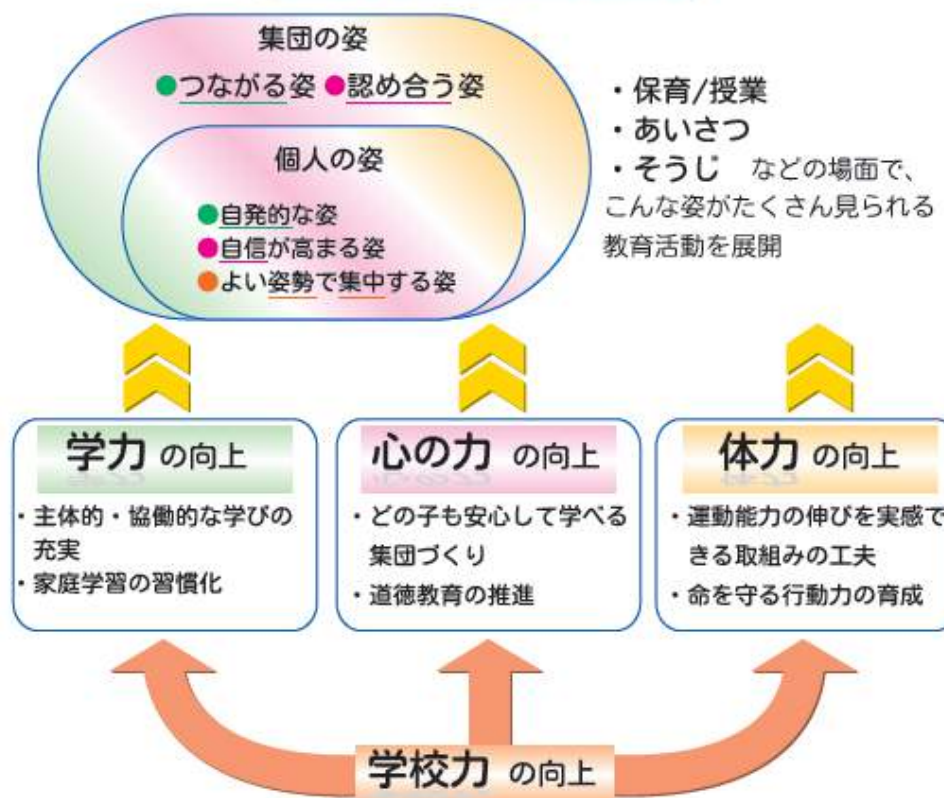
—自分らしくいきいきと学び、さやまを愛する子—

さやまっ子の夢をふくらませる教育

めざす子ども像

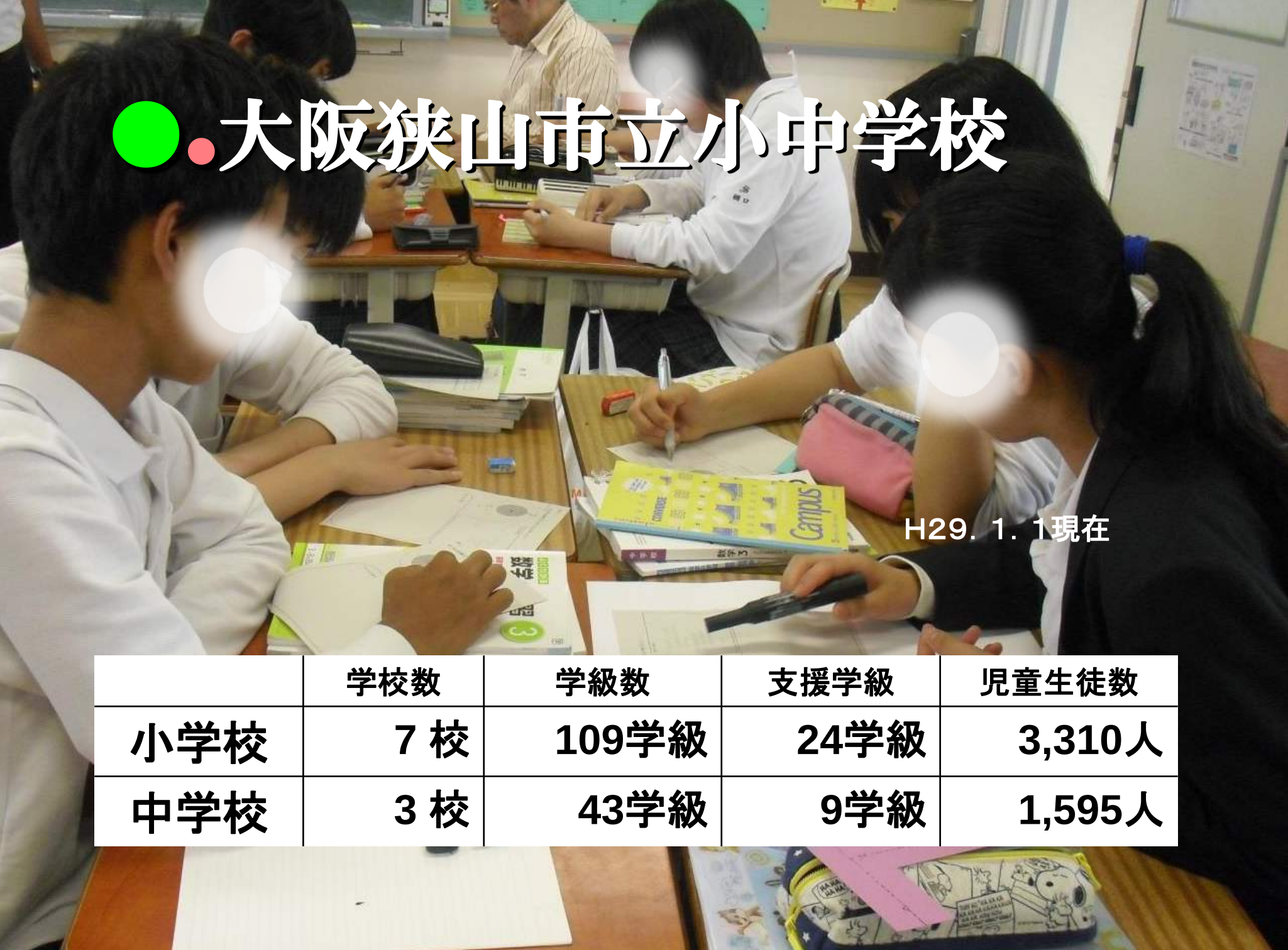
自分らしくいきいきと学び、さやまを愛する子
一人とつながり、たくましく生き抜く人づくりをめざして

めざす保育・教育活動のイメージ



取組みの重点

教職員のチームワークによる、どの子ども大切に作る保育や教育の提供
家庭や地域との連携による、アイディアに満ちた学校園づくり
調査の結果分析に基づく取組みの工夫改善

A photograph of a classroom with several students sitting at wooden desks, working on papers. The students are wearing white shirts. The text '大阪狭山市立小中学校' is overlaid on the image in a large, white, bold font, preceded by a green circle and a red dot.

●●大阪狭山市立小中学校

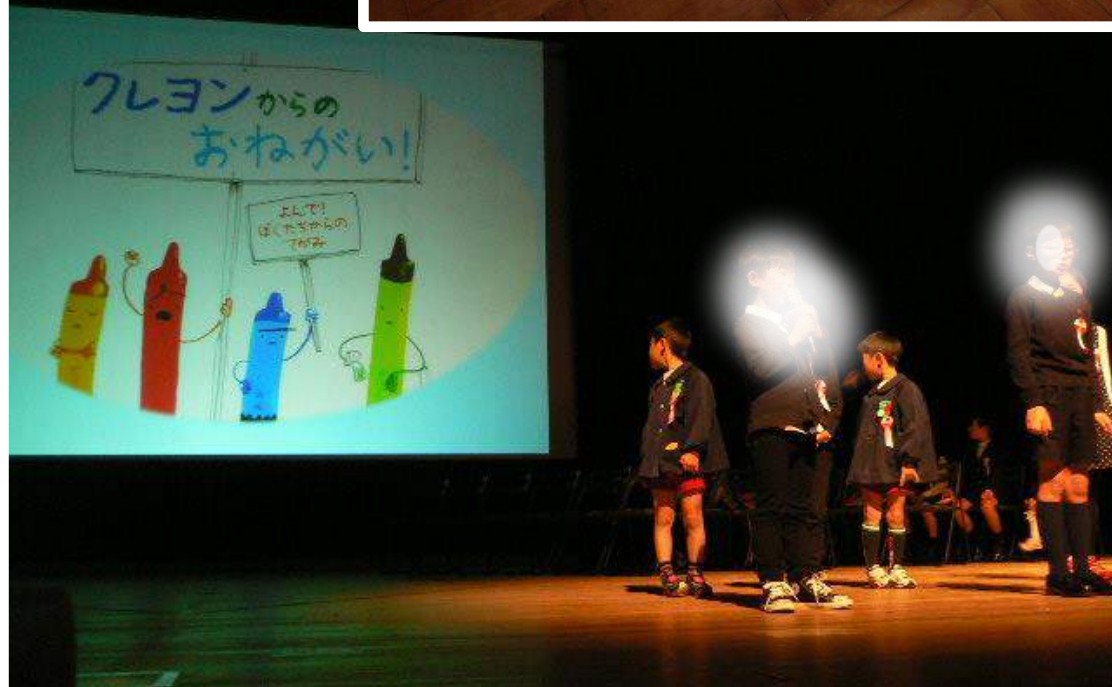
H29. 1. 1現在

	学校数	学級数	支援学級	児童生徒数
小学校	7 校	109学級	24学級	3,310人
中学校	3 校	43学級	9学級	1,595人

●めざす子どものすがた

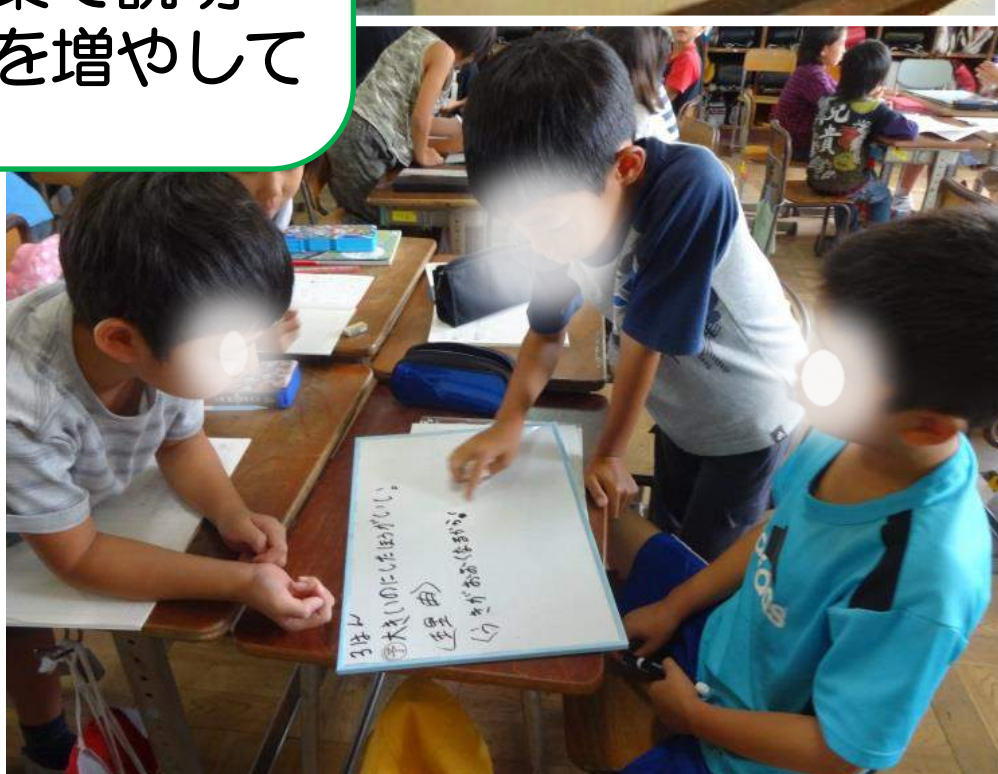


子ども主体の学び
の場を大切に





自分の言葉で説明
する場面を増やして





対話を通して、
学びを深いものに



2. 研究の経緯と組織

教員の子ども理解に課題

小学校高学年や中学校になってから、学習困難や問題行動として顕著になる子どもについて、「もっと早期に困り感に気づくことができていれば・・・」



- | | |
|--------|--|
| 平成19年度 | 発達障がいテーマとした実践研究会立ち上げ <ul style="list-style-type: none">・各校で、小野次朗先生による事例研究をスタート・各校で、チェックシート等の活用による実態把握 |
| 平成24年度 | 東小学校で、M I M指導スタート <ul style="list-style-type: none">・M I M指導についての研修会を市主催で実施 |
| 平成26年度 | 文部科学省の事業を受け、研究を推進 <ul style="list-style-type: none">・全小学校の1年生で、M I M指導スタート・通級指導教室未設置校における個別指導教室開始 |

★大阪狭山市内の全小学校

- MIM指導、チェックリストの実施
- 実施後の検証
- 校内委員会における児童の共通理解
- 通級指導・個別指導
- 支援教育に関する研修会の実施

各校担当者

- 通級指導担当
- 支援C○
- MIM主担
- 1年生担任

★事業運営委員会

- 小野次朗医師（委員長）
- 梅花大学伊丹教授
- 大阪府教委指導主事
- 発達障がいアドバイザー
- 巡回相談員
- 小学校校長 • 中学校担当教諭

共同研究・実践交流
成果まとめ・情報発信

小中学校通級指導及び
小学校個別指導担当者会

MIM主担者会

小中学校合同の研修会・中学校区単位の研究会

★大阪狭山市教育委員会





● 医師や学識経験者などを交えた
事業運営委員会

3. 研究内容

研究テーマ

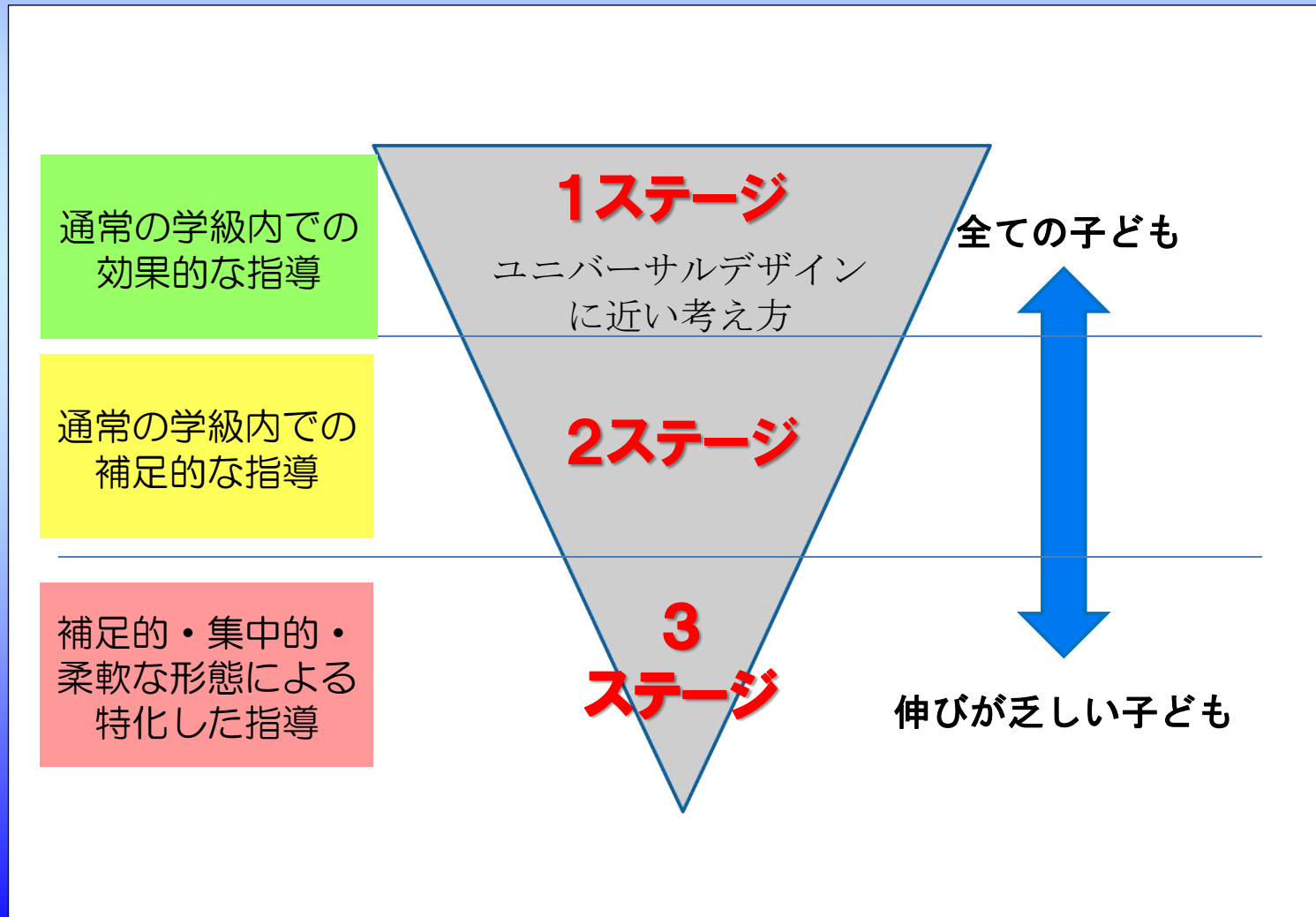
発達障がいのある子どもに配慮した
授業づくり・集団づくり

MIM指導の活用によるつまずきの早期発見と、
どの子も理解しやすい指導方法の工夫

●●MIM(通常学級における多層指導モデル)

Multi-layer Instruction Model

通常の学級において「読み」のつまずきを早期に発見し、子どものニーズに対応した指導・支援をしていこうとするモデル。特殊音節を含む読みのテスト(MIM-PM)で定期的にチェック

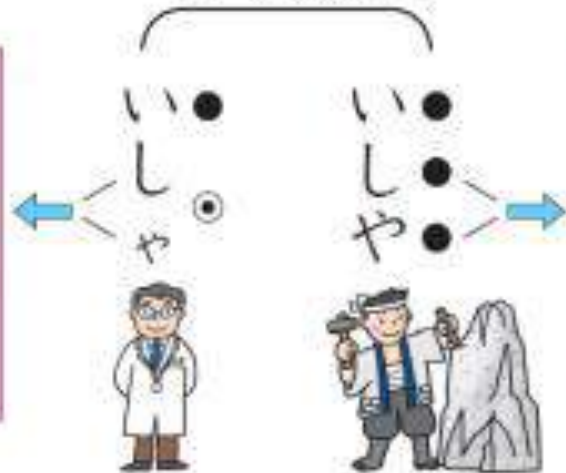




図画のルール① 物の視覚化

どう ちがうかな？

2もじなのに
1ばく



2もじで
2はく

あわさって
ねじれる
おど



M I M指導を、1年生全員に実施します



M I M-PMと文部科学省チェックリストで、つまずきを把握します



通級指導教室などで、課題を克服する指導をします



集中できる教室環境を整え、1時間の授業の流れを工夫します



どの子も、わかる喜びが実感できます



自己肯定感が高まり、さらなる成長へとつながります

● 個別指導を全10校で展開

	通級指導教室	個別指導教室	通級教員派遣 (週2回)
東 小学校	●		
西 小学校		●	
南第一小学校	●		
南第二小学校	●		
南第三小学校		●	
北 小学校		●	
第七 小学校	●		
狭山 中学校	●		
南 中学校	●		
第三 中学校			●

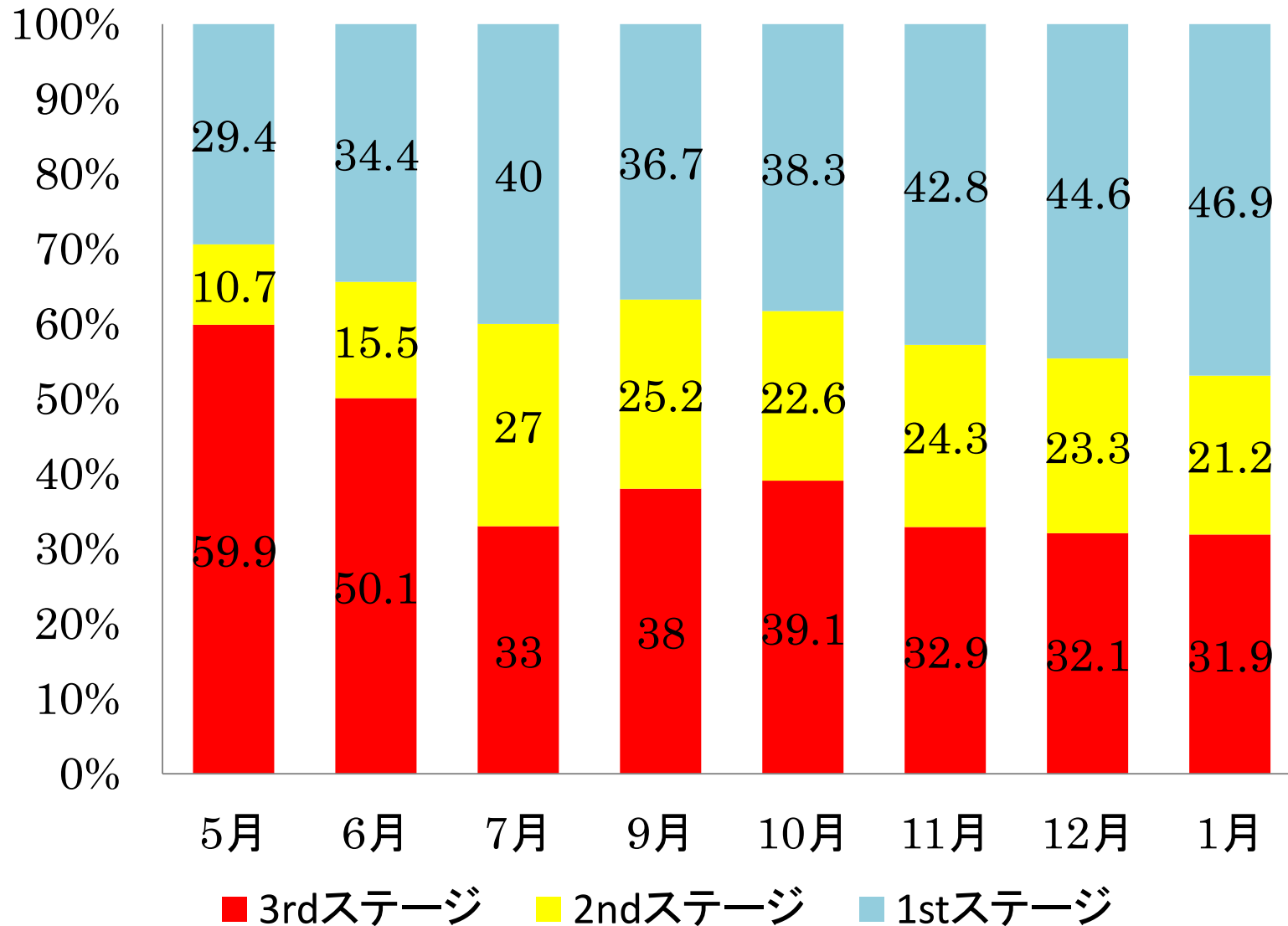
4. 成果

1. MIM-PMの結果の活用による指導
2. 個別指導の充実と授業の工夫
3. 教室環境の工夫
4. 取組みの普及・全体への広がり



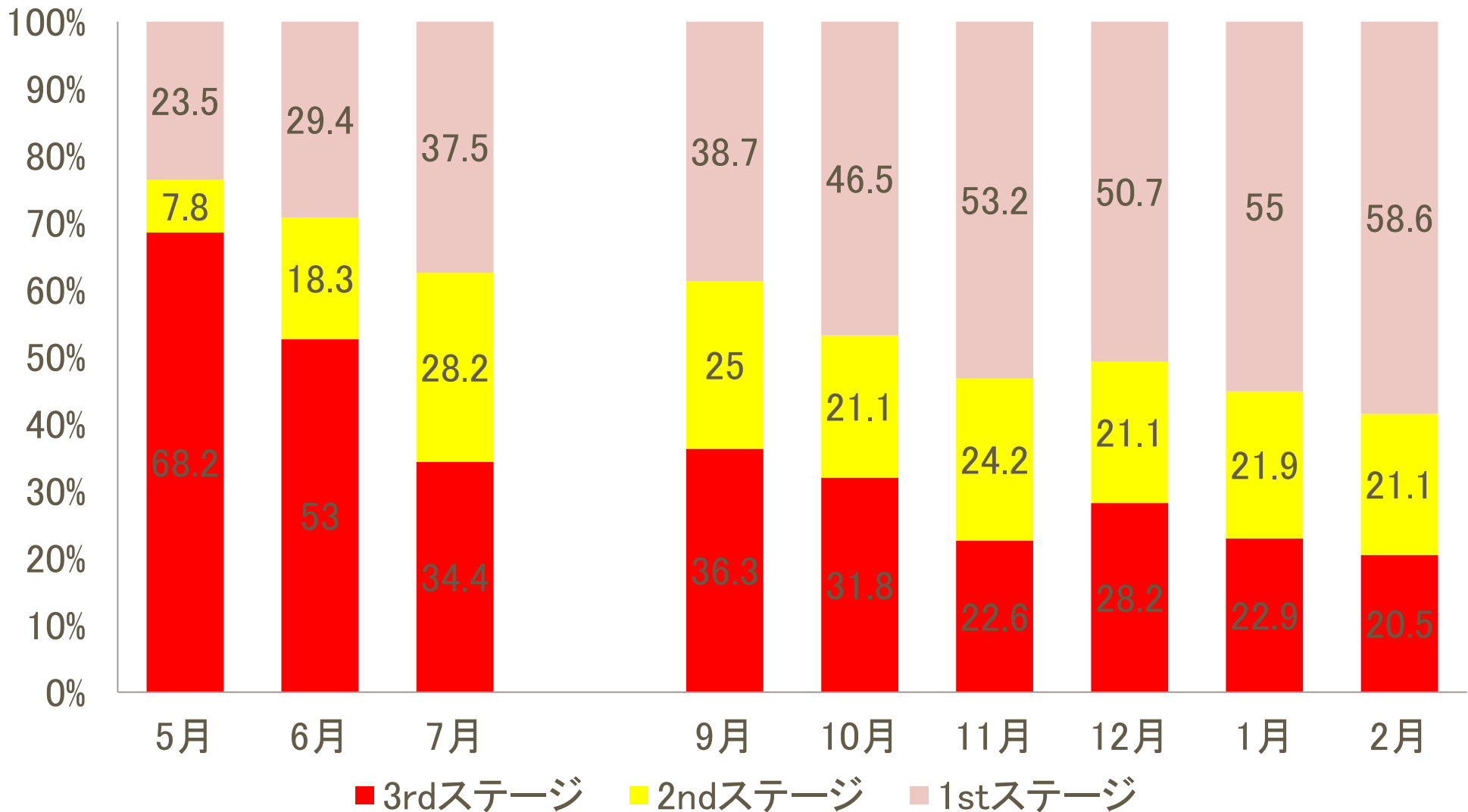
MIM－PMの推移(7校合計)

平成26年度

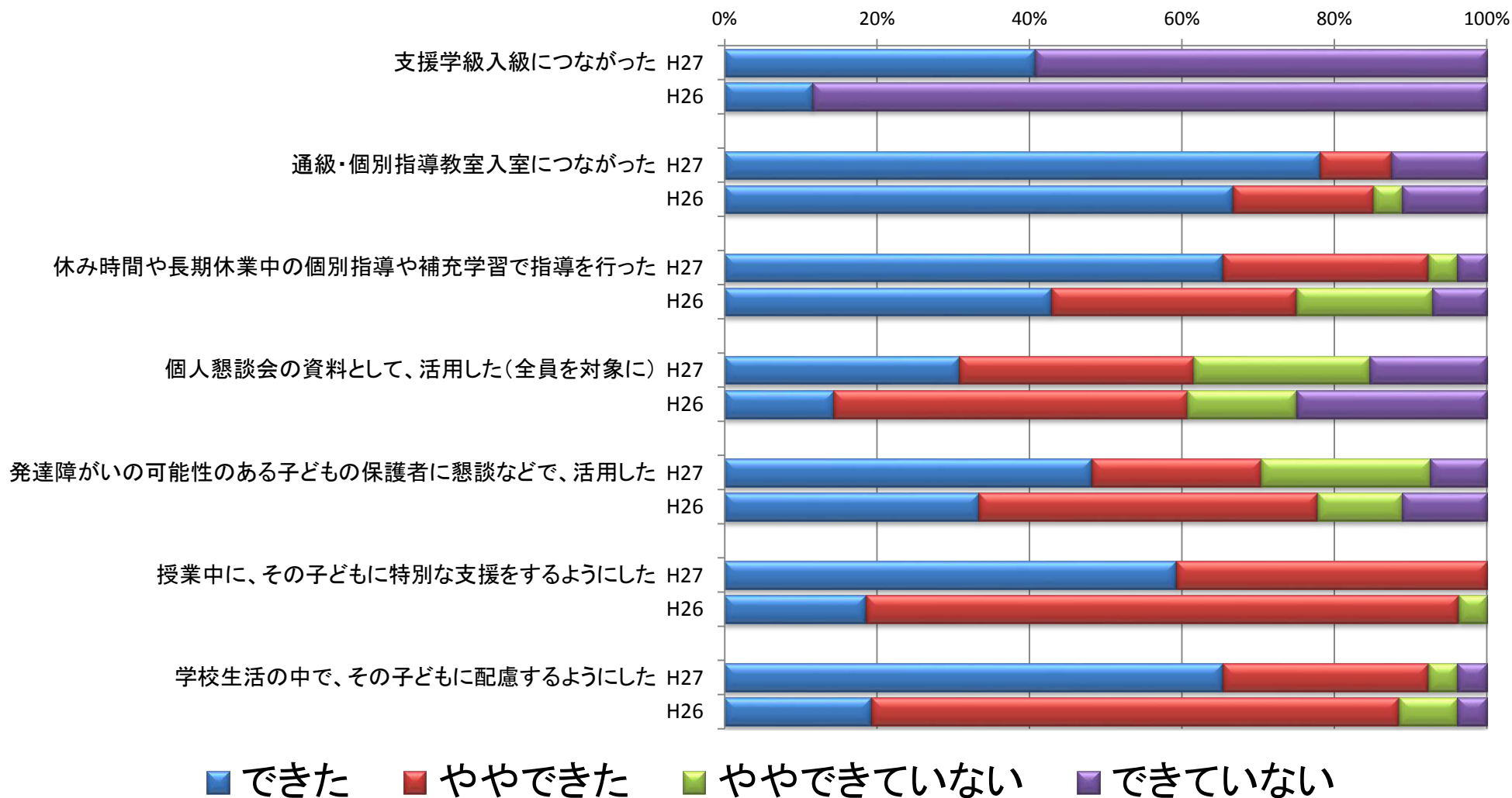


MIM－PMの推移(7校合計)

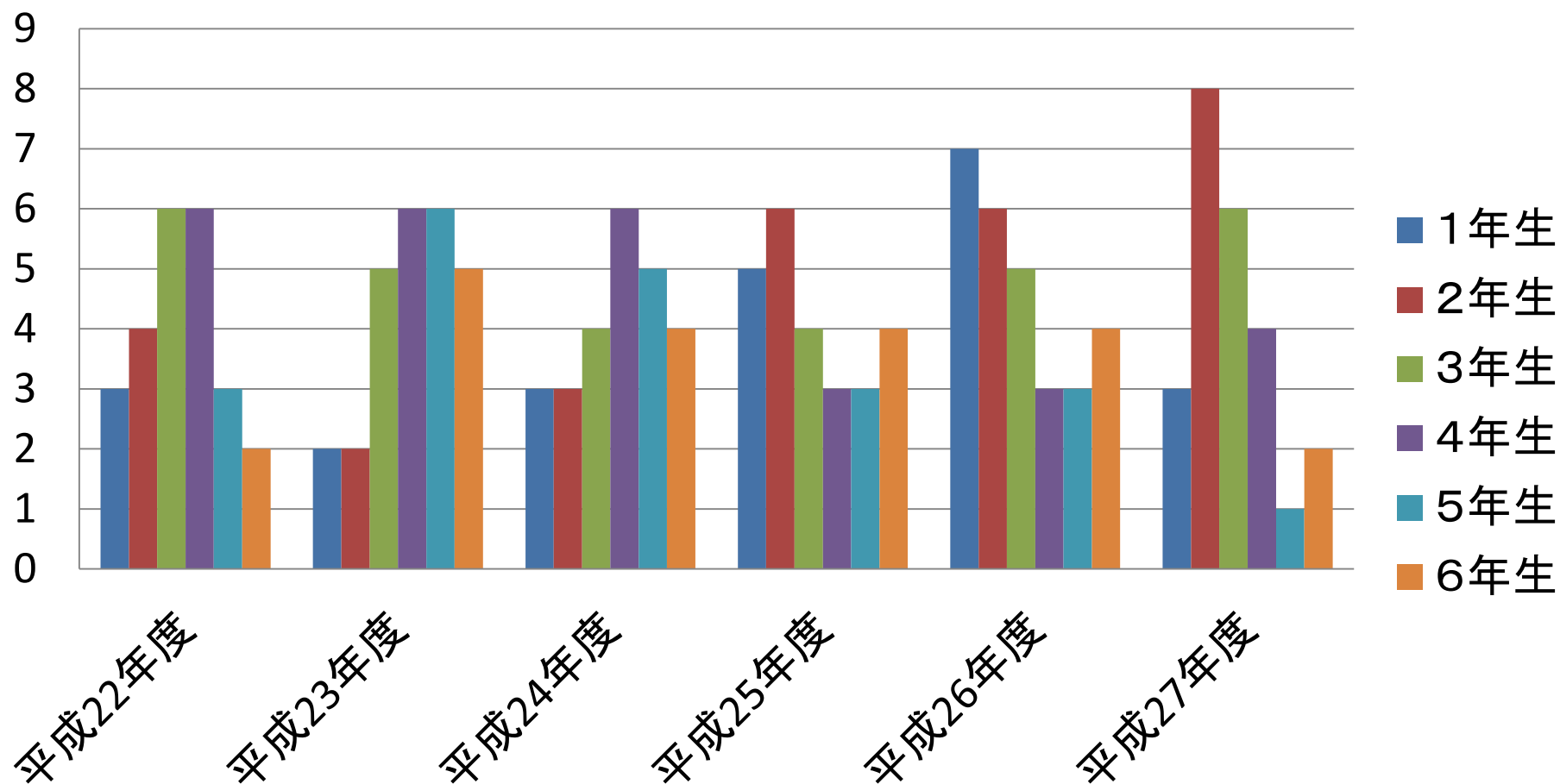
平成27年度

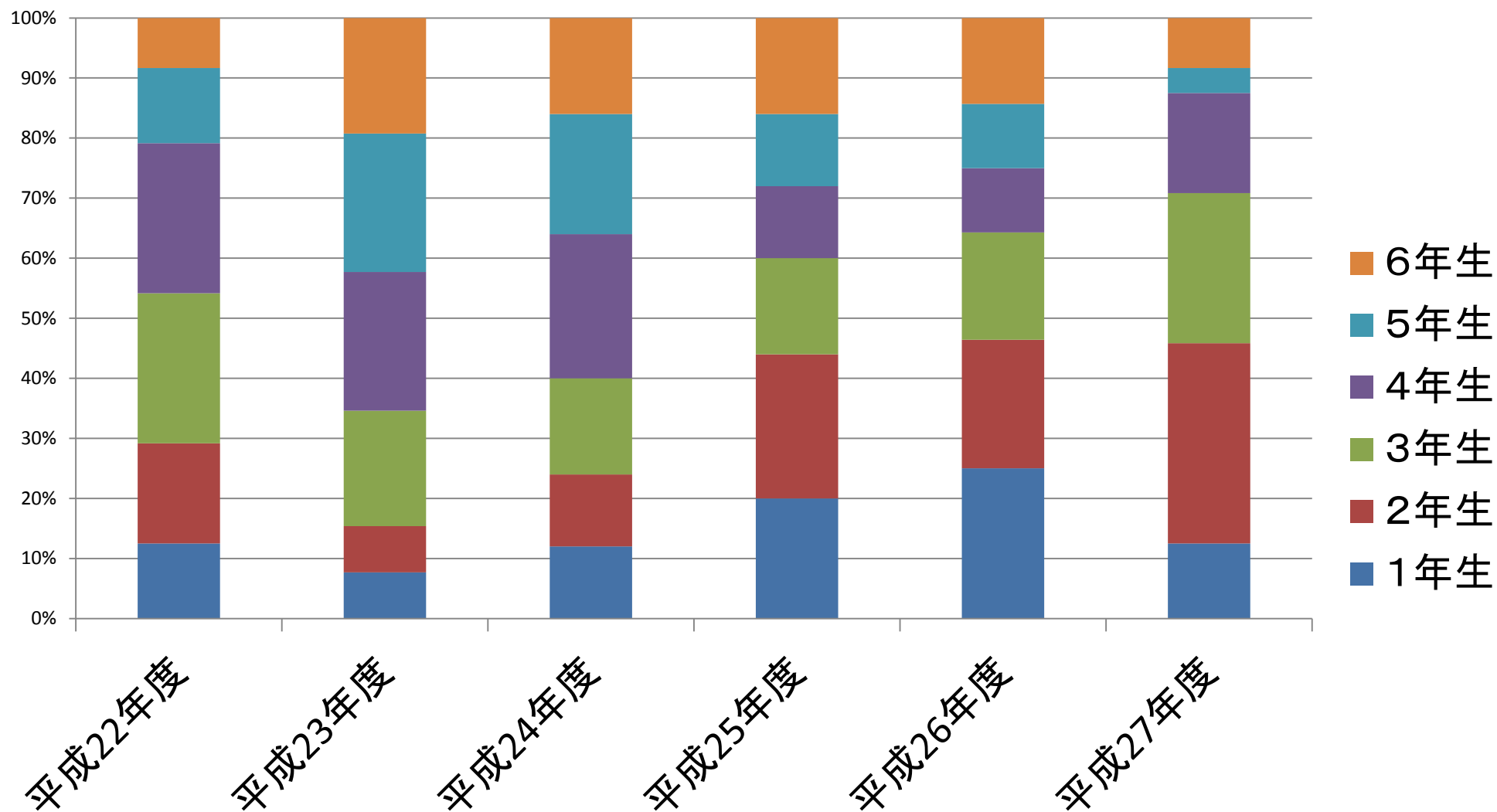


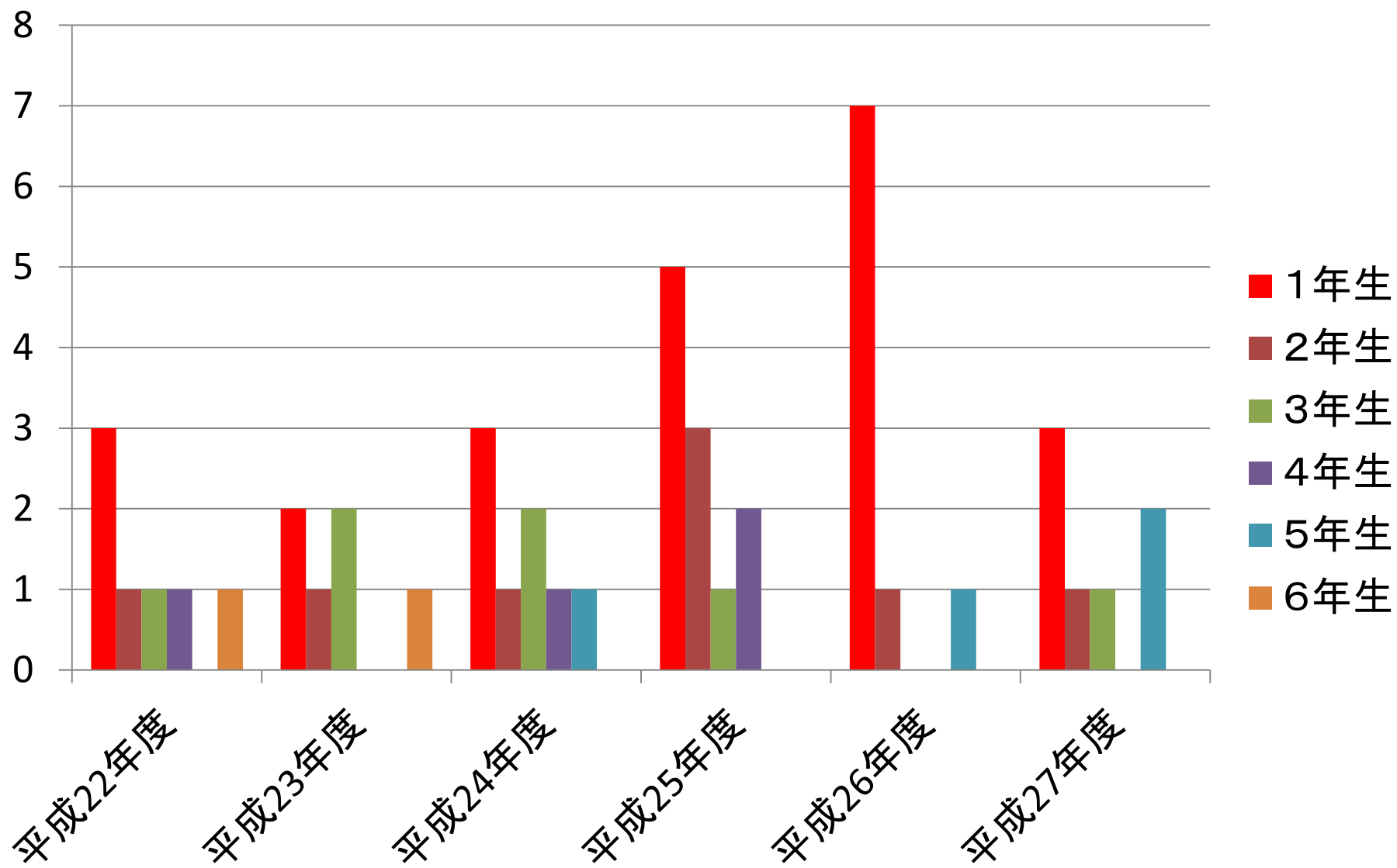
MIM-PMの結果の活用



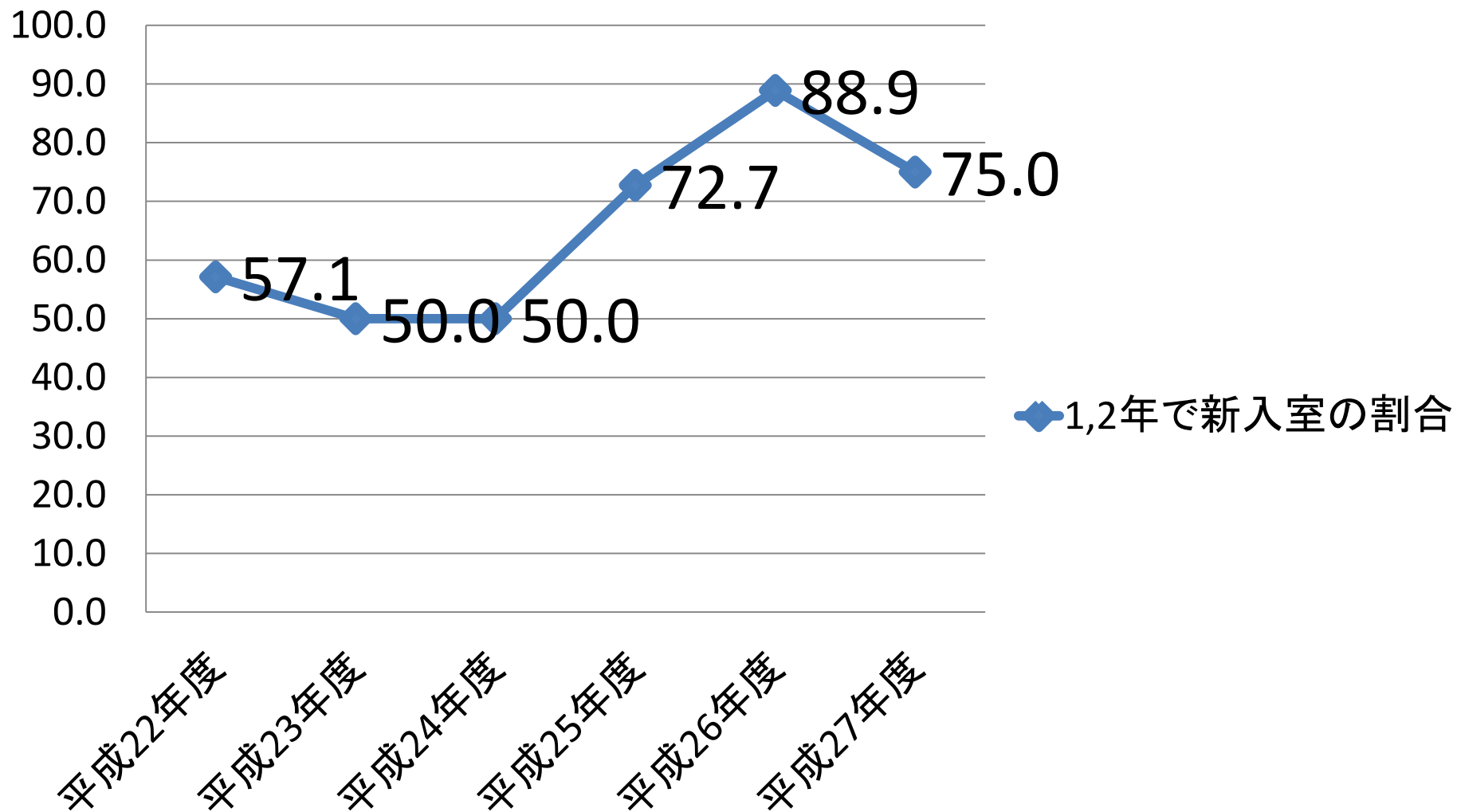
A小学校通級児童数





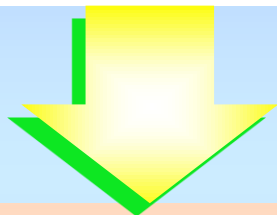


1,2年で新入室の割合



■ 全校で個別指導ができる環境が整い、きめ細かい指導の充実が図れた。

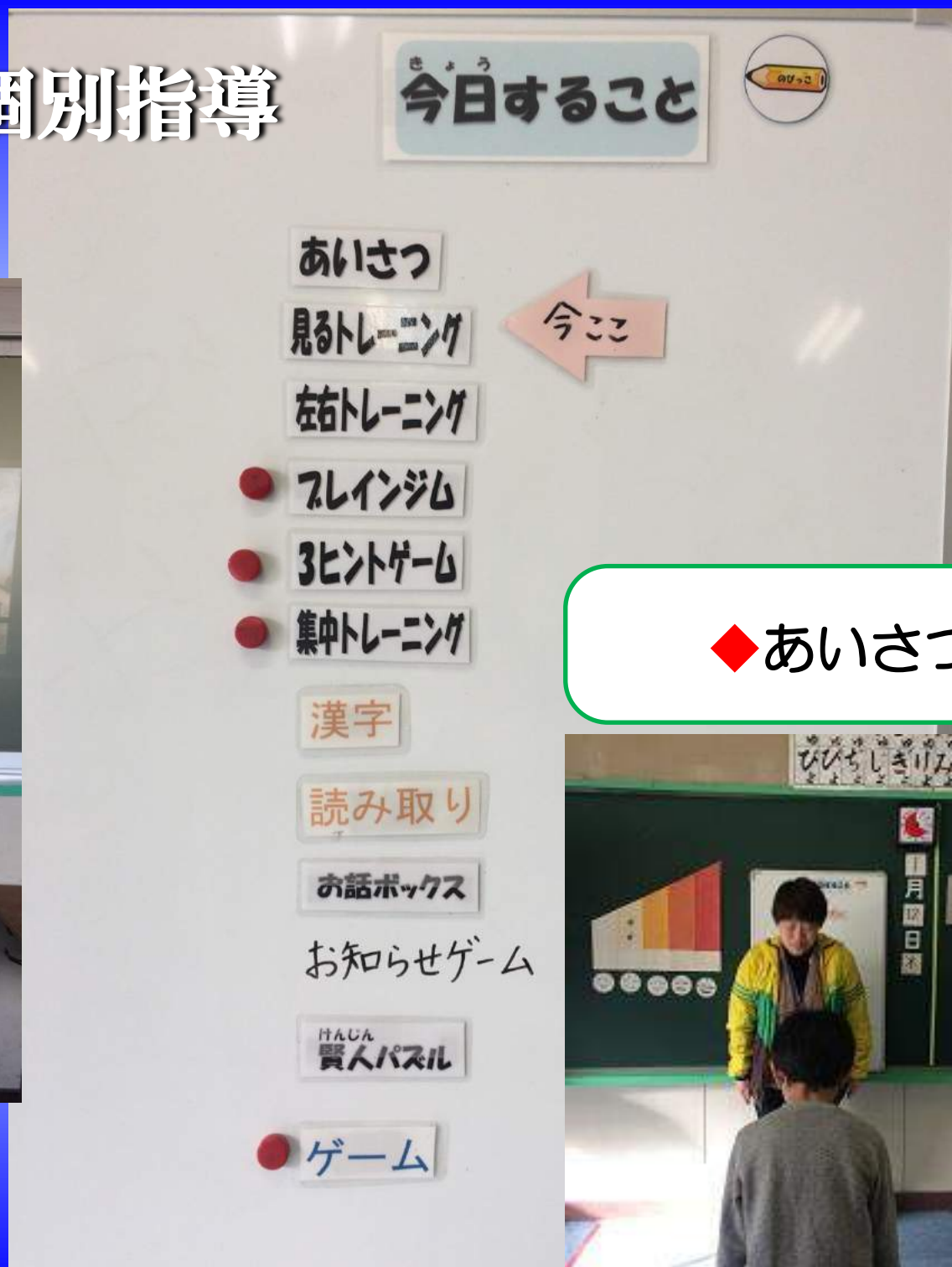
■ 通級指導を受ける子どもの学年が低くなった。



◆ 子どもの「わかる・できる」喜びにつながり、保護者の理解も深めることができた。

◆ 早期発見と早期支援が進んだ。

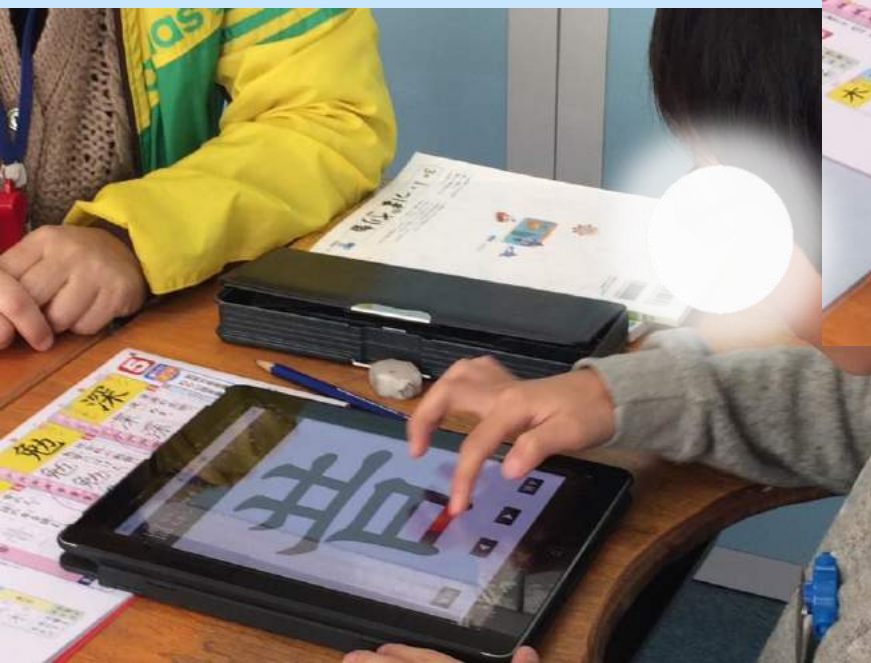
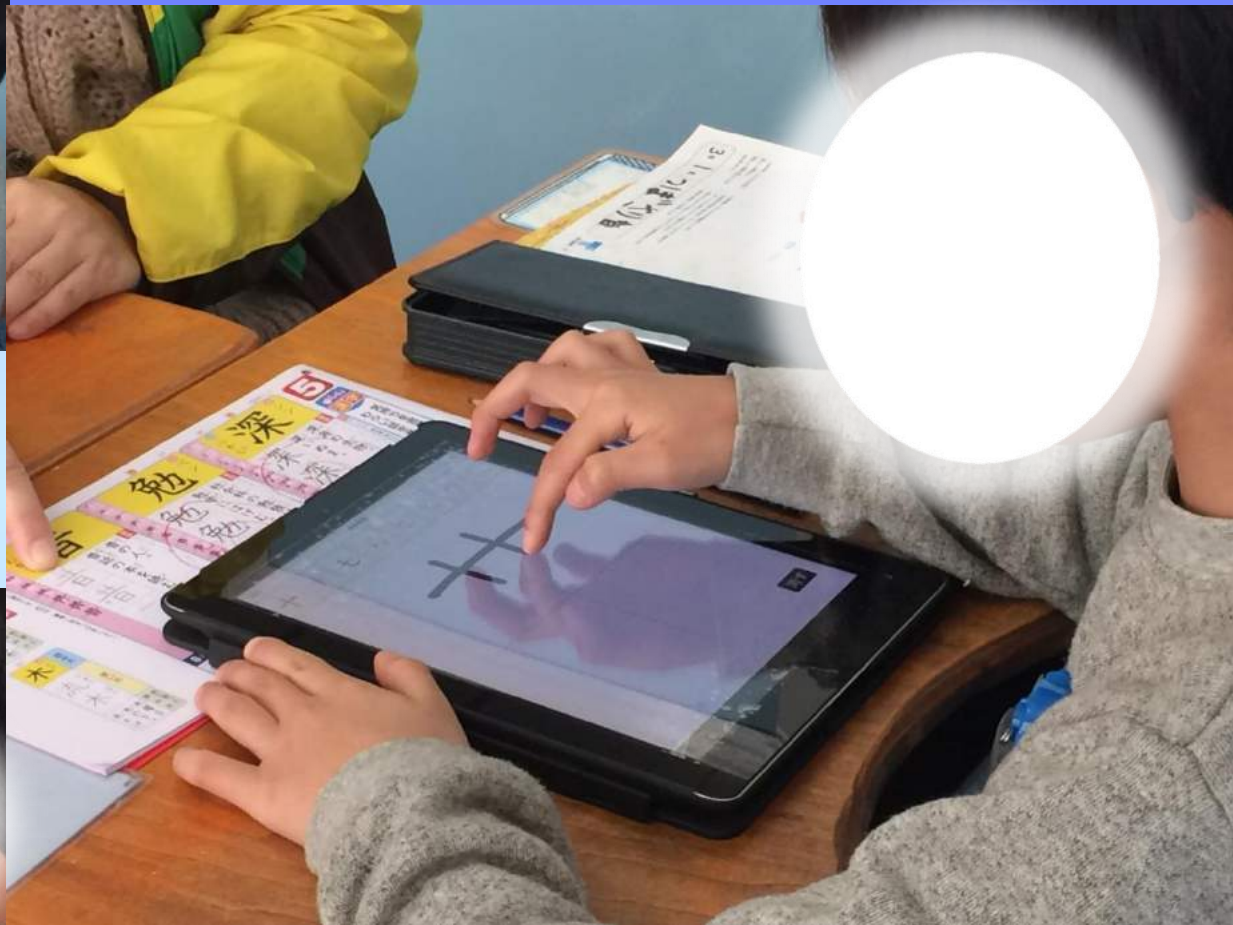
●通級指導・個別指導 の充実

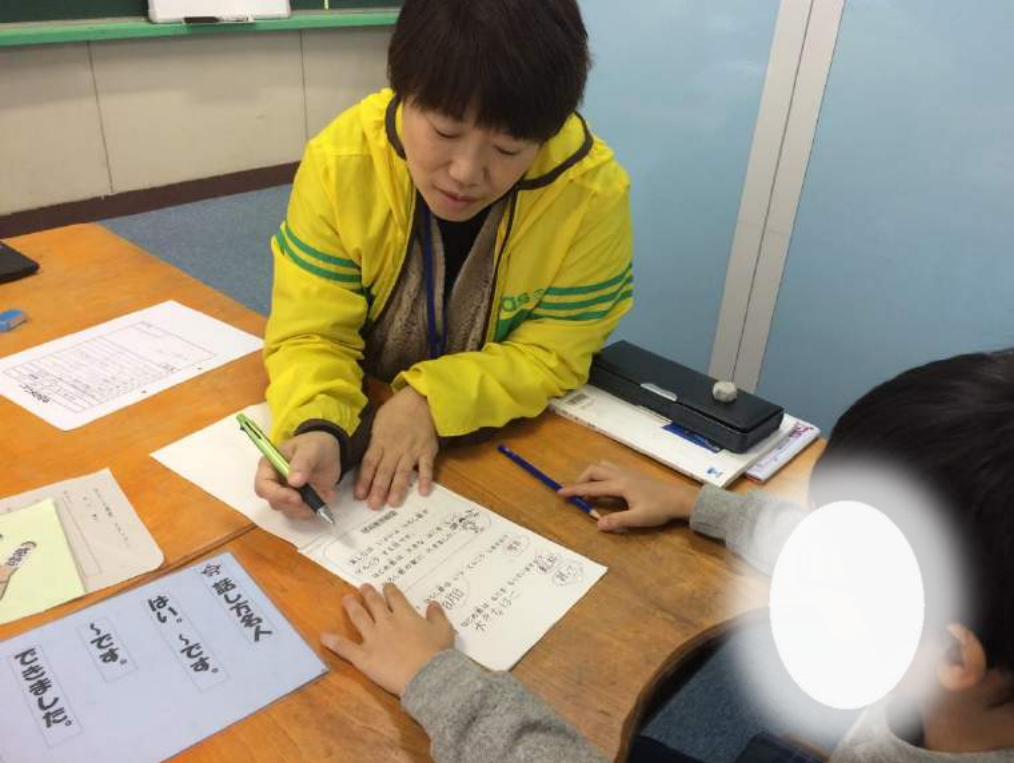


◆ あいさつ



◆ 漢字

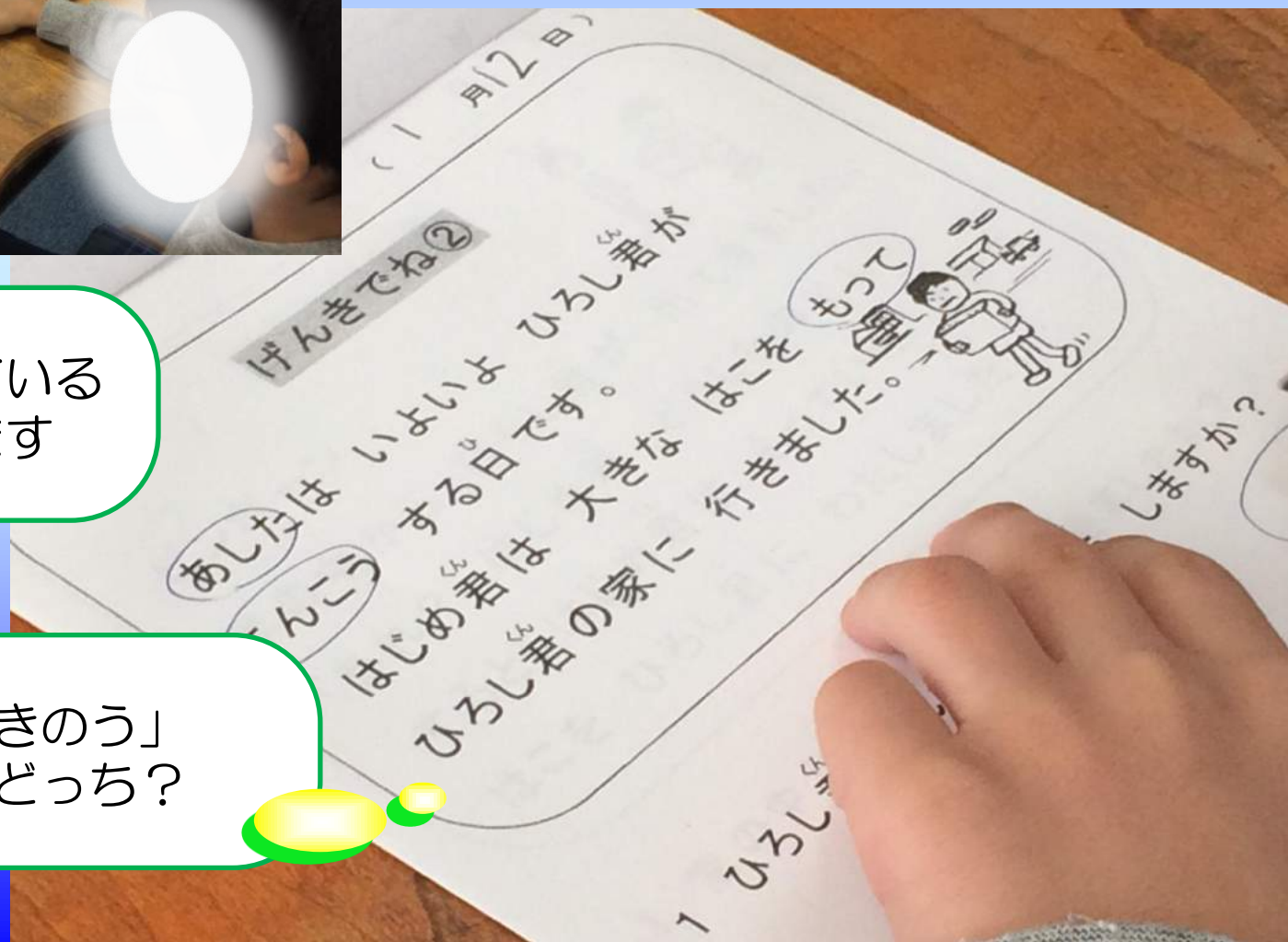


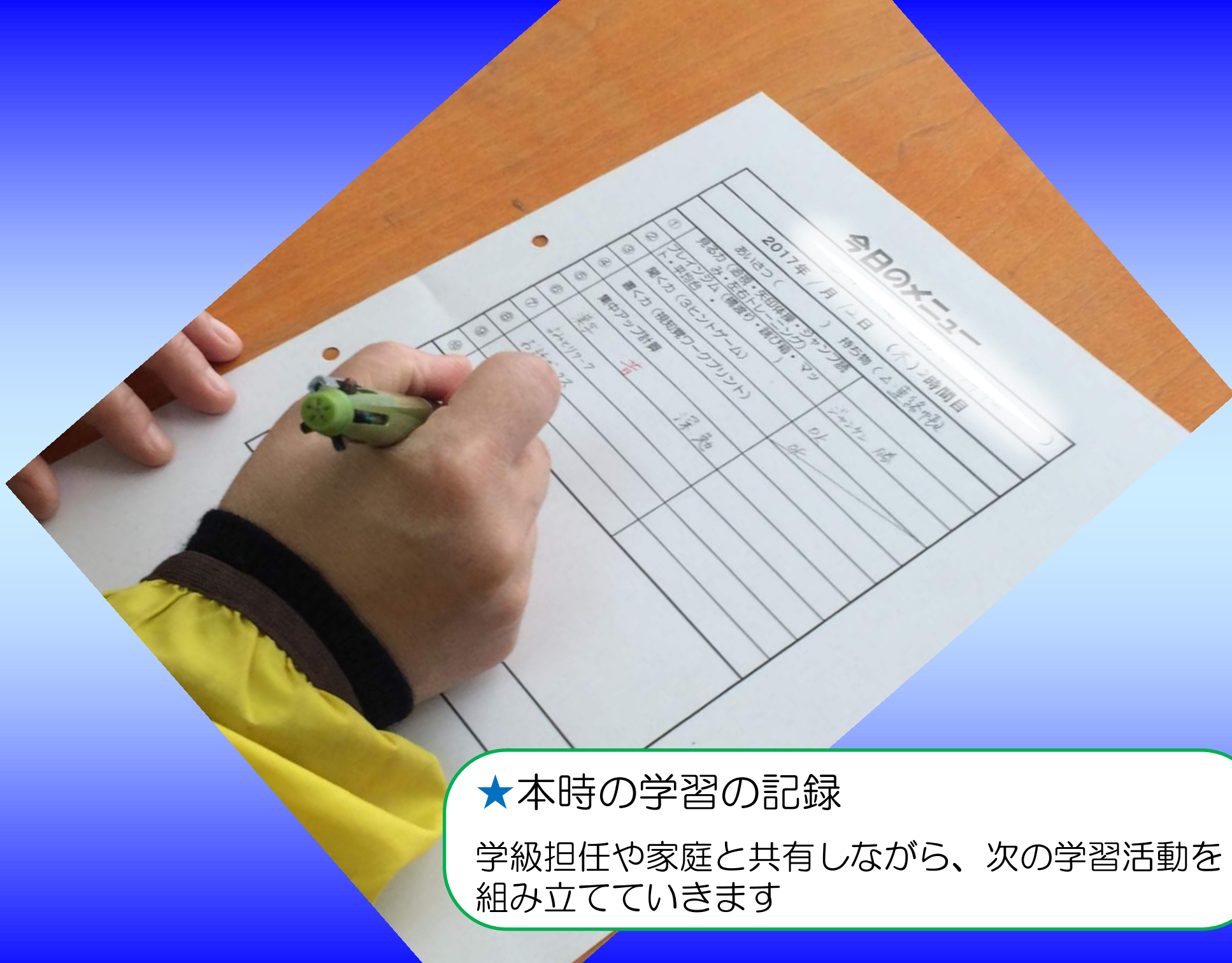


文章を読み取って、問い
に答えます

どんな言葉でつまづいている
かを把握して、指導します

「あす」と「きのう」
終わったのはどっち？





★本時の学習の記録

学級担任や家庭と共有しながら、次の学習活動を組み立てていきます

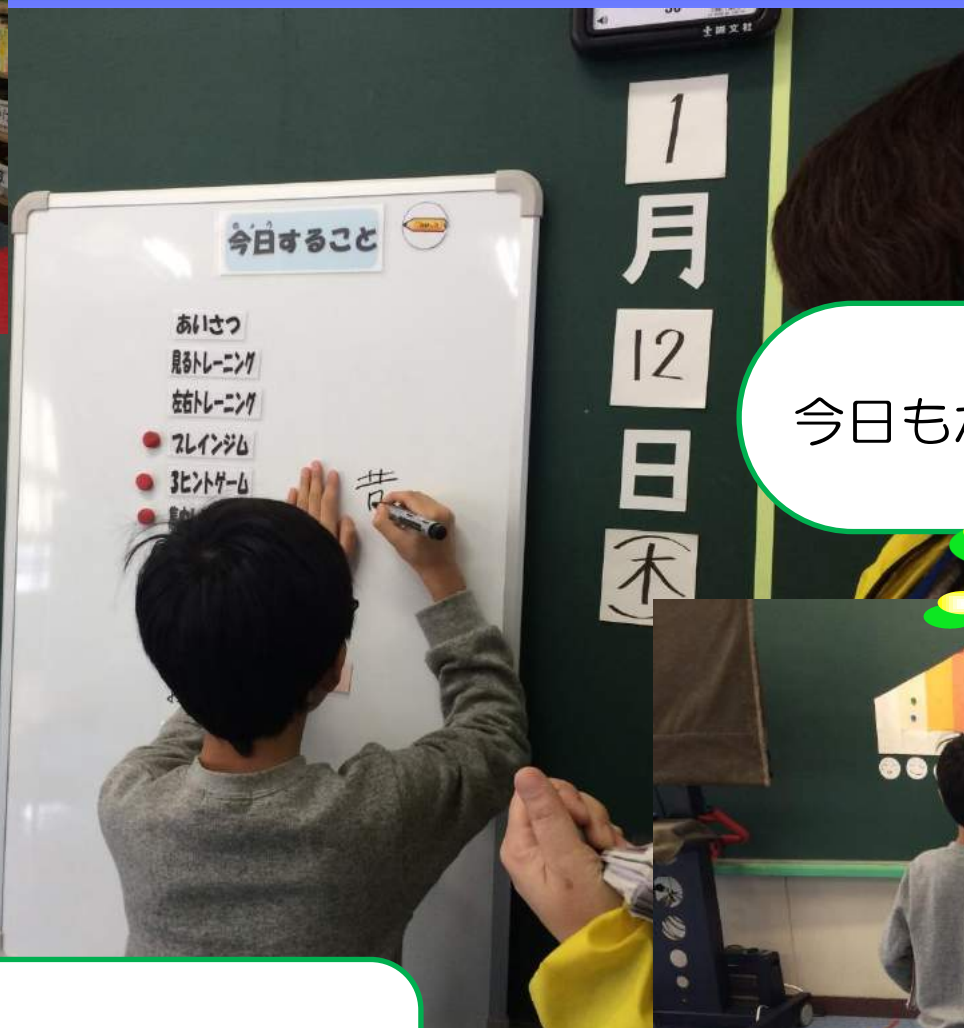


2階の右から3番目の部屋で、お父さんが、木をのこぎりで切っています。カードを正しく置けるかな？



次は、ぼくが先生に問題を出すよ

◆お知らせゲーム



今日もがんばれたよ！

◆片づけ・確認・あいさつ



●中学校でも・・・





M I M指導につながる就学前のことばの学習

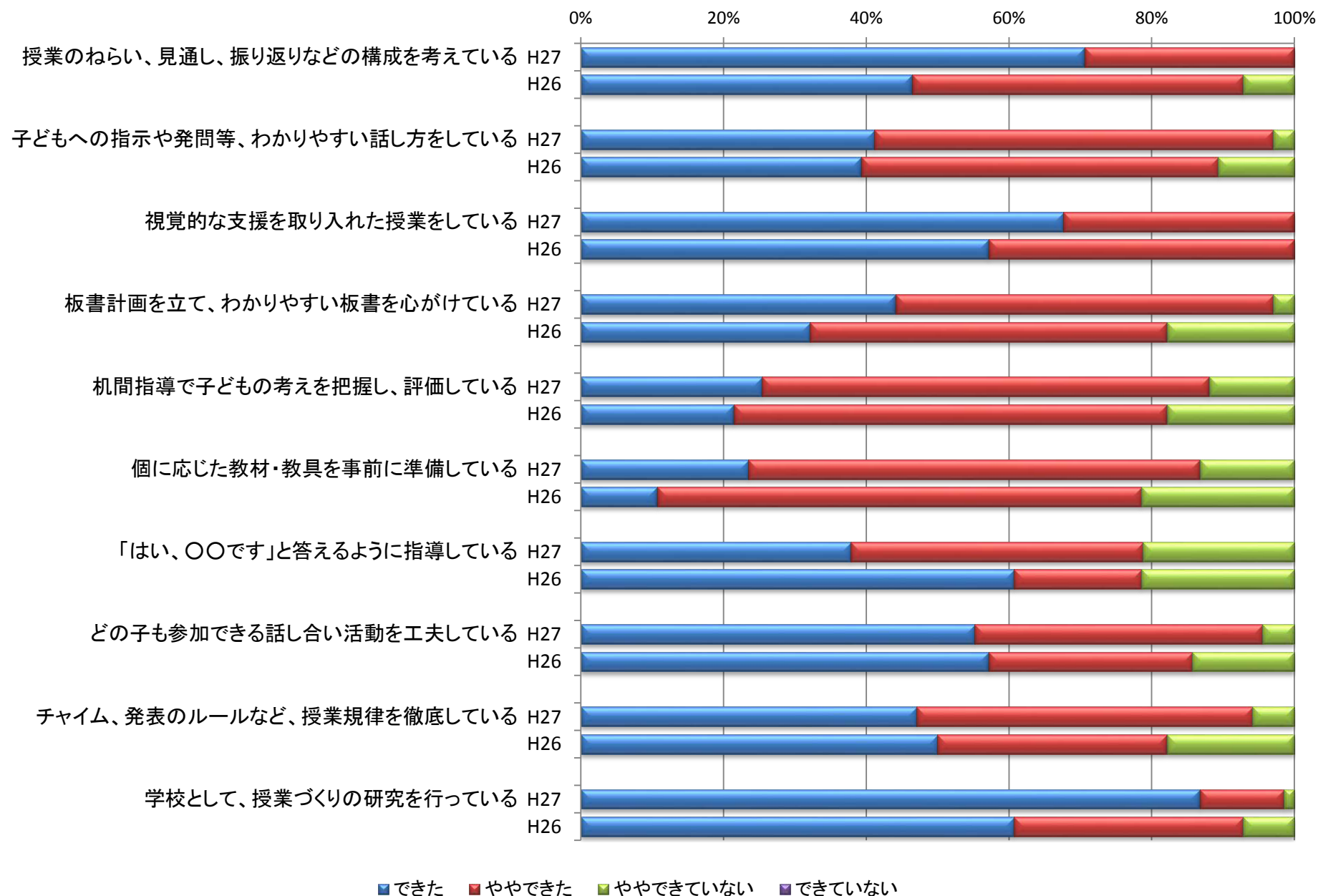


タイムタイマーの日常的な使用
で、見通しが持てる授業づくり

ICTの活用など視覚支援を意識
した授業づくり



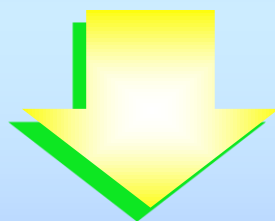
授業の工夫



■学識経験者等によるさまざまな研修会や運営委員会が実施できた。

■小学校教員が「MIM指導につながる言葉の学習」を幼稚園で行った。

■中学校区の公開研究会の分科会等で、支援教育の視点が取り入れられた。



◆教員の専門性が高まった。

◆子ども理解と校種間連携が進んだ。

鏡は、必要時に使えるようにしておきます

一日の予定を
掲示します

黒板の上部に何も貼らないで、黒板に集中できるようにします

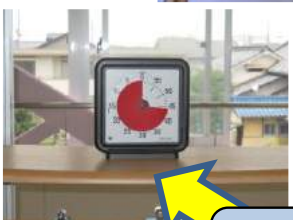
前面の掲示物は、必要時に使えるようにしておきます

1時間の学習の流れ
を掲示します

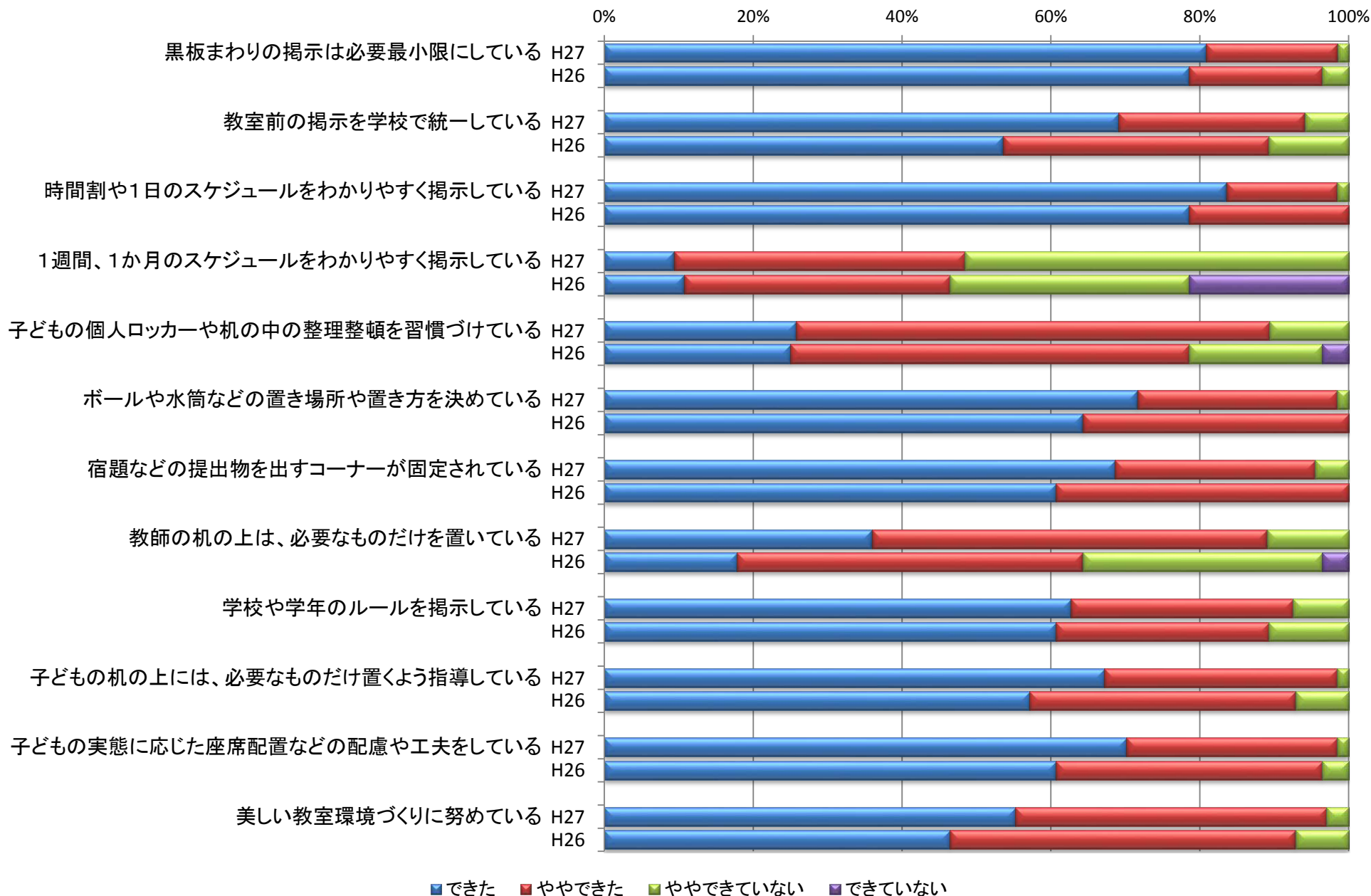
黒板はきれいにふきます
不要なものは見えないように保管します

教師の机の上を整理します
たなの中は見えないようにします

タイムタイマーで、時間の流れを示し、見通しをもてるようにします

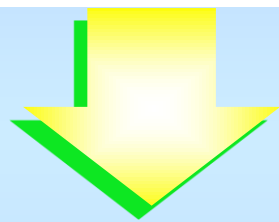


教室環境の工夫



■各学校が、集中できる教室環境、ルール、指示や声かけ、板書やノートなどの指導において工夫改善に取り組んだ。

■先進地の視察研修と報告会、学校間の情報交流が活発にできた。



◆市全体の基礎的環境整備が進んだ。

◆学校としてのスタンダードを構築し、体制づくりが推進できた。

● 取り組みの広がり

PTA活動として、
発達障害をテーマ
とした講演会等の
実施をめざす

保護者・地域

発達障害の可能性のある
児童生徒の**保護者**

低学年の通級希望が増える等、早期の発見と理解

中学校区別公開授業等で、UDの意識高まる

中学校
学校全体

小中合同の部会で交流。
指導方法の改善に

幼・保・こども園
支援教育・通級担当

国事業で、全小学校に拡大。研修等で充実

小学校
学校全体

1年生担任

1つの小学校からスタート

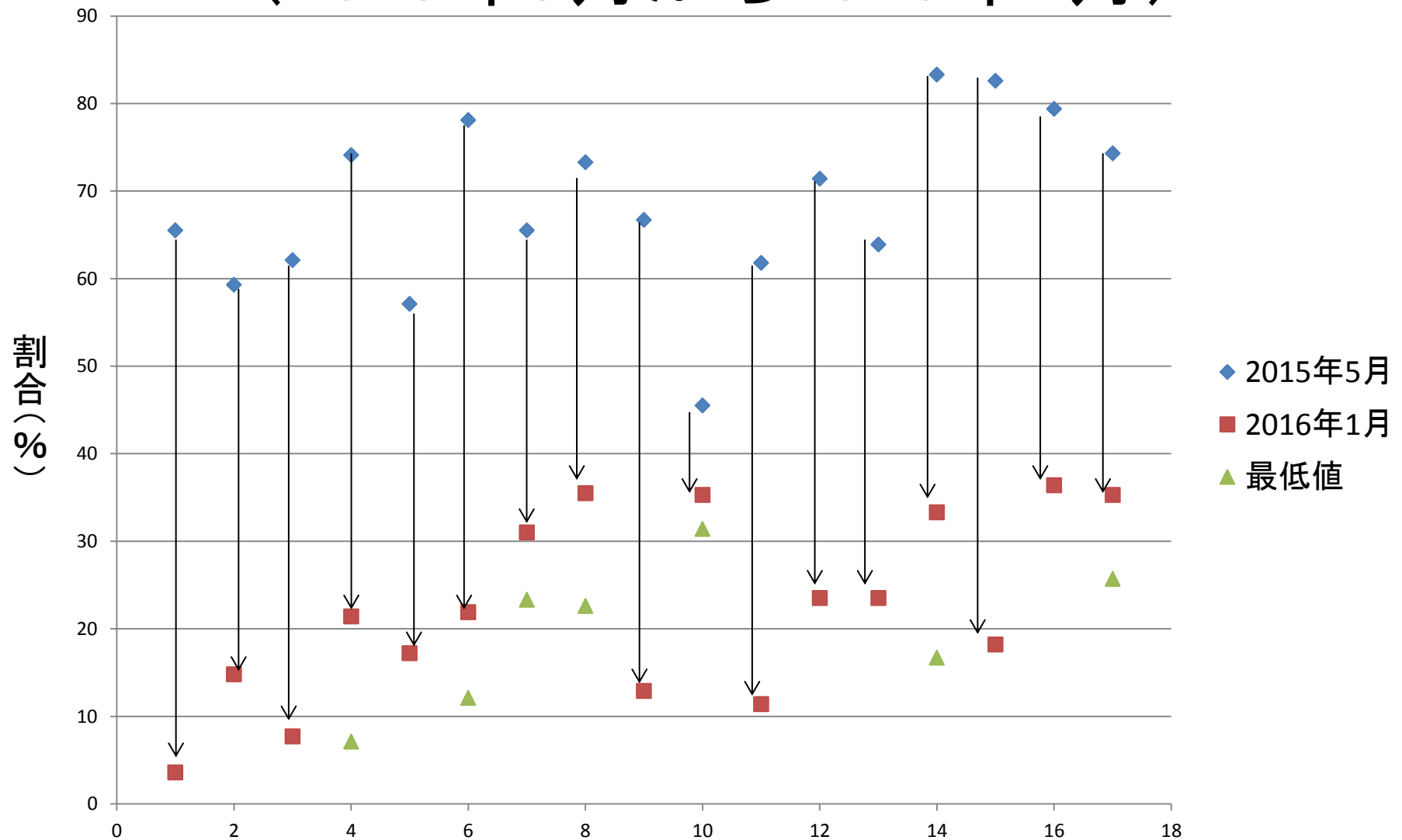
支援教育
通級担当

5. 課題と今後に向けて

1. MIM-PMの結果の原因と対応
2. 小中学校間の指導の連続
3. 教員の指導力のさらなる向上

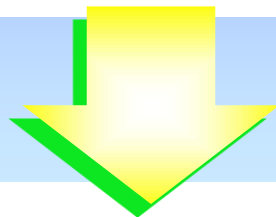


学級内の3rdステージの割合の変化 (2015年5月から2016年1月)



(2016年1月が最低値ではなかった場合、2016年11月あるいは12月の最低値を▲で表した)

- 成果の少ない学級へのサポートのあり方
- 小中学校間の通級指導教室の連携
- 一斉指導における指導方法の工夫



- ◆ 集団づくりの研究推進
- ◆ 短時間MIM指導の継続的な実施
- ◆ 教員の子どもも理解力と指導力のさらなる向上
- ◆ 「短いスパンの学習活動の組立て」を取り入れた授業づくりの研究

●さらに成果を高めるために

成果のあった学級の様子から、どの子にとっても

こんな教室に

●みとめてもらえる

●あきない

●すっきり

◆互いに認め合う
雰囲気の学級

◆短時間×継続
で集中

◆教室
◆授業の流れ
◆先生の話
がわかりやすい！

市の事業で、互いに見せ合い、高め合う

■学校をまるごと公開する「まるごとパック事業」

■模範となる教員の授業を公開する「授業力向上研修」

■学識経験者や市教委指導主事による学級訪問・研究授業訪問 など

●2つの文部科学省指定を受けて・・・

どの子も理解しやすい指導のあり方について
さらなる研究推進をめざす